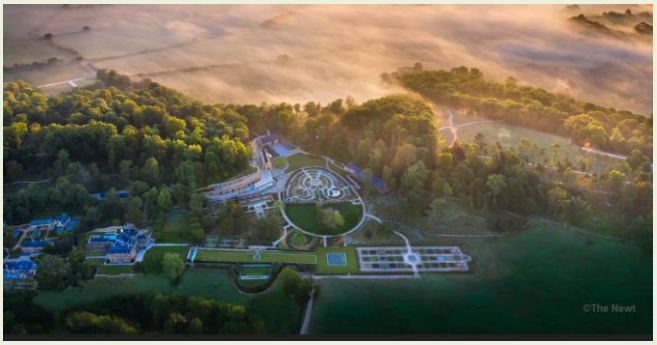
サマセットのカントリーサイドでの優雅でサステーナブルな週末＆ジュラシックコースト

イギリスで対コロナの制限がなくなって2年が経とうとしている。旅行業に従事する者として感じるのは、コロナ禍によって旅のスタイルや旅に求めるものに変化がもたらされたことだ。より開放的な場所、自然との触れ合い、癒しの時間、身体にやさしい素材などの志向や、エコフレンドリー、サステーナビリティ、グランピング、ワーケーションといったトレンドがそうである。また、海外移動の制限から国内旅行の需要や関心が高まった。海外からの旅行者に人気のコッツウォルズや湖水地方はロックダウンの間に衰退するかと思いきや国内の旅行者で大賑わいし見事にサバイバルしたのがよい例だ。

英国生活25年の筆者も例にもれず自身でこのような変化を感じている。これまでであれば海外の都市でのシティ・ブレイクでショッピングやグルメを楽しんだり、滞在型の旅行なら海や山のある海外のリゾート地へ行けばそこそこの欲求は満たされていた。ところが、コロナ禍以来イギリス国内の地理・歴史・文化的な関心が高まるとともに、自然が身近に感じられる場所により魅力を感じるようになった。また、旅行先でせわしなくあちこち出掛けるのではなく、滞在そのものをゆったりと楽しむ旅を切望するようになった。

イギリス人の間では、都会の喧騒を離れ自然の中でゆったりとした生活を送ることが憧れとなっている。上流階級の多くがカントリーサイドに家を持つほか、平日は都会で働き週末や長い休みを田舎の別荘で過ごしたりする人もいる。リタイア後はロンドンを離れて田舎暮らしをしたいという話や、コロナ禍で在宅勤務にシフトした際、思い切ってロンドンからカントリーサイドに移住した人も多くいると聞く。そんなイギリス風のカントリーライフが叶わない人も、カントリーサイドでのホリデーでにわか気分を味わうのが人気だ。

英国内にこのような欲求が満たされるところがあると聞いて出かけたのが、イングランド南西部サマセット州の田園地帯にあるリゾート・エステートだ。ロンドンから車で約2時間半、電車であれば約1時間半プラスそこから車で約20分と、ロンドンから比較的手軽に行けるところにある。「The Newt in Somerset」（Newtはイモリの意）という名のこのエステートは1000エーカー（400ヘクタール：東京ドーム80数個分）の広大な敷地内に野生の鹿が済む原生林や湖、菜園や果樹園、複数のガーデンのほか、ジョージア式の邸宅や馬小屋、馬車置き場、穀物庫などを改装したラグジュアリーな宿泊施設、レストラン、スパ、博物館も備えていて、まるでひとつの村のようなコミュニティが形成されている。



サマセットという土地自体これまで訪れたことが無く、一体どんなところにあるのかもまったく想像がつかないまま、断片的な情報だけを頼りに行ってみることになった。ロンドン西部を出発して約2時間半。道の両側に延々と田園地帯が広がる中を車で駆け抜ける。ナビではエステートの入口近くに来ているもののそれらしき建物が見当たらないと思っていると、見逃しそうなほど小さな看板が付いた門が開いていてその奥に道が続いている。ということは、これまで走ってきた道路沿いの農地はこのエステートの一部なのか？訳が分からないまま駐車場にたどり着いた。

駐車場にはゴルフ場で見るようなカートが何台も停めてあり、ホテルの建物まではさらに距離があるようだ。カートでの道すがら年代を感じるいくつかの建物を通り過ぎ、ホテルの本館らしきジョージア式の美しい建物に着いた。ラウンジでチェックインと館内・敷地内の説明を受ける。エステート内を自身で探索するのはもとより、毎日アクティビティーが行われていて無料で好きなだけ参加できる（ワインテイスティングとスパトリートメントのみ有料）そうだ。私達は早速エステートの探検に出かけた。

ホテル本館横にある牧草地では牛やヤギが放牧されていて、すぐ側で草を食む姿が見られる。本館から続く小道を行くとテーマごとに異なるスタイルのガーデンや温室のほか300種近くのりんごが植栽された大きな円形ガーデンが広がっている。すべてのガーデンを巡るだけでも結構な距離になる。ガーデン好きにはたまらないだろう。放し飼いの鶏が行き来し、子供たちが追いかける姿も見られるとてもリラックスした雰囲気だ。

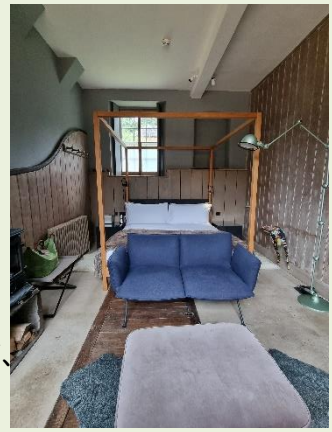
ガーデンの奥にはうっそうとした森林や湖が広がっている。遊歩道が整っていて標識が各所にあるのでハイキング中に迷うこともなさそうだ。Deer Parkと呼ばれる野生の鹿の保護区域もある。森の中をさらに行くと木々の間に突如高さ10メートル強の曲がりくねった歩道橋が現れた。これを進むとガーデニングをテーマにした体験型の博物館に続く。敷地内にはこのほかローマ時代の邸宅の遺跡を復元したローマン・ヴィラや蜂の生態や養蜂について解説した博物館ビーザンティウムもあるそうだ。

広大なりんご畑を見ながらカートで5分ほど進むと、以前酪農場だったという建物を改装した別館や四季をテーマにした広大なガーデンがあった。とにかく、ホテルの敷地とは思えない大規模で想像をはるかに超えた自然、それに多彩な施設があることに驚きを隠せなかった。

このエステートの特徴は単なる自然にあふれたリゾートなのではなくて、サマセットという地の特性を重んじ、自然との共存を目指したサステーナブルな農業を実践し、来訪者がそれらを体験する場を提供していることだ。サマセットはりんごの栽培が盛んなところであるが、この敷地内でも広大なりんご畑でりんごが栽培されていて、そのりんごでサイダー（シードル）を製造する工場もある。製造工程で出た搾りかすは自家製パンの材料や飼料となるという。

敷地内では牛やヤギが飼育されているほか、養蜂も行われていてはちみつも自家製だったり、きのこや果実、野菜も栽培されている。ここのレストランやカフェで提供される食べ物の多くが敷地内で収穫したものや地元産のものが使われているそうだ。敷地内にあるファームショップでは、地元産の肉類・乳製品のほか自家製のハムやチーズ、パン、ジャム、ワイン、サイダーなどを販売するファームショップ、自家製ジェラートショップのほかガーデニング用品を揃えたショップもある。

ホテルはいくつかの建物に分かれていて、年代を経たそれぞれの建物の特徴的なデザインを生かして改装しイギリスらしさが感じられる内装となっている。私が泊まった部屋は昔厩舎だったところを改装したもので室内のデザインに当時の片鱗がうかがえる。小さなキッチンやテーブルもあり、ファームショップで買った材料を使って自分たちで食事を準備することもできる。薪ストーブは飾りではなく実際に使えるそうだ。テーブルには季節のフルーツ、パントリーにはビスケットや自然素材のスナック、冷蔵庫には自家製サイダーやアップルジュース、ミネラルウォーター、ミルクなどが備えられていて、すべて無料で提供される。



翌日、朝食後にDeer Park ツアー（鹿の保存区域を散策するツアー）に参加する。雨が降ったりやんだりというあいにくの天気だったが、ホテルが貸し出ししているゴム引きのカッパとHunterの長靴を身に付けて出かけた。鳥のさえずりが聞こえる中、ぬかるみにはまったりしながら広大な森の中を担当スタッフと歩くこと約15分くらいでDeer Parkと書かれた門から保護区域に入る。木々の間に母鹿と小鹿が用心深くこちらを窺っているのに遭遇した。餌付けなどされていない野生の鹿なのでこちらに寄ってくることもない。しばらく行くと、牡鹿が群れを成している姿も見えた。生態系を保つためにこれらの鹿も頭数がコントロールされていて、テーブルにのぼる機会もあるようだ。

午後はサイダーツアーへ。敷地内のサイダー工場は小さいながら自家製の数種のサイダーを製造している。りんごを洗って圧搾し樽で熟成する行程の説明を受けると、いよいよお楽しみの試飲だ。この日は6種のサイダーが用意されていた。どの瓶にもこのエステートのシンボルであるNewt（イモリ）のロゴが印刷されている。サイダーの色は透明なものから琥珀色までさまざまで、味も酸味が強いものや甘みのあるもの、より熟成したものや少しだけ発砲した感じのものまであり、サイダーにもこんなに種類があることを知った。ここで作られたサイダーはファームショップで買える。

このほか、ミツバチの専門家と養蜂所を巡る「ビーサファリ」や「ハニーテイスティング」、専門のレンジャーとともに森林を巡る「ウッドランドツアー」、庭師とともに歴史あるガーデンを巡る「ガーデン・ツアー」など自然を堪能できる体験や、ヨガスタジオ、敷地内のサイクリング（貸自転車あり）、屋内・屋外プールやサウナ、先に紹介した施設などアクティビティーが山ほど用意されている。

2泊の滞在ではこれらを網羅することはとてもできなく残念に思ったが、宿泊者にはガーデンやアクティビティーにアクセスできる（一部を除く）1年間のパスが発行され、日帰りでいつでも訪れることができるそうだ。今度は違った季節に異なる景観を楽しみに来ることにして、私たちはエステートを後にした。

ロンドンへの帰り道、せっかくなので近隣の観光スポットに立寄ることにした。エステートから南へ車で約1時間、世界自然遺産のジュラシックコースト東部にあるアーチ型の奇岩ダードルドアだ。ジュラシックコーストはデボン州東部からドーセット州東部まで約153㎞に渡る広大な海岸線で、三畳紀、ジュラ紀、白亜紀にできた地層が断崖を形成していている。その名の通り、恐竜やアンモナイトの化石が出ることで有名である。

ダードルドアの駐車場に車を停め、一路海岸へ。舗装されていない坂道を下って10分も歩いたであろうか、急に視界が開けてあの奇岩が眼下に現れた。何層にもなった岩がアーチ型に浸食されてできた景観は、すでにいろいろな人に描写されているが、恐竜（もしくは首の長い動物）が海に頭を突っ込んでいるようである。この辺りの海でよく見られる透明なエメラルドグリーンの海の色もとても印象的だ。さらに急勾配の階段を恐る恐る下っていくと、茶色の荒い砂地の海岸にたどり着く。浜辺を少し歩いてみる。ダードルドアの反対側は白いチョーク質の崖が連なり、ちょっとだけあのセブンシスターズを思わせる。日陰がないので夏には日焼けしすぎないよう注意が必要だろう。下ってきた道を戻るのに、体力に自信のある私も最後はさすがに息が切れそうになった。往復の歩道や階段は滑りやすいところがあったり、幅が狭くなっているところもあるので歩きやすい靴で出かけることをお勧めする。

次にダードルドアから車で約10分のところにあるラルワースコーヴを目指す。ラルワースコーヴはきれいな楕円型の入り江で、毎年50万人が訪れるといわれる有名な観光地である。また、地層が圧力を受けて大きく曲がった様子が見れる地質学的にも重要なスポットとなっている。

駐車場から続く断崖を先の方まで10分ほど登っていくと、入り江全体を見晴らす展望ポイントにたどり着く。何も遮るものがないため海風をまともに受けることになるが、遠くから見ても分かる透明な深緑色に輝く入り江と断層が縦に露出した岸壁が見渡せる。入り江にはたくさんの漁船が停泊していて、付近は小さな漁村となっている。隣のダードルドアからラルワースコーヴまで歩道があるので、健脚の方には片道約30分強のウォーキングもお勧めだ。

ロンドンから週末やホリデーで郊外を目指すなら、このサマセットのリゾートエステートで滞在型のショートトリップはいかがだろうか。お子様連れでも安心していろいろな体験ができ、イギリスらしいカントリーライフが満喫できる。ジュラシックコーストもぜひ訪れていただきたいスポットの一つである。

※The Newtにはガーデンやエステート内の散策を日帰りで楽しめるプランがあるそうだ。列車ファーストクラスの往復のほか、往路列車内でのブレックファスト、ガーデンツアー、ランチ、エステート内の散策とショッピング、自社製造のサイダーの試飲、復路列車内でのアフタヌーンティーが付いて、4月から9月の特定日に催行される。詳しくは下記参照。マイバスUKにもお問い合わせ可。
The Newt in Somerset, Bruton Somerset BA7 7NG
https://thenewtinsomerset.com/

JTB Europe Ltd. Mybus UK　北出泉子

発行：　日本クラブ会員サービス･イベント委員会
原稿：　マイバスUK　Email: info_uk@mybus-europe.com, HP: www.mybus-europe.jp
日本クラブ　TEL: 020 7921 9490　Email: jimukyoku@nipponclub.co.uk　HP: nipponclub.co.uk